

# 「加齢黄斑変性について」

～増加しています！知っておきたい眼の病気「加齢黄斑変性」について～

**Q：「加齢黄斑変性」とはどのような病気ですか。**

**A：** 眼球の内側には光や色を感じる網膜という組織があり、網膜の中心部にある黄斑は物を見るために最も重要な部位です。「加齢黄斑変性」は、加齢によって黄斑が障害を受けることで見え方が悪くなる病気です。人口の高齢化、生活様式の欧米化によって近年増加傾向となっており、日本では50歳以上の方の1.3%（77人に1人）、患者数は69万人と推定されています。



**Q：「加齢黄斑変性」はなぜ起こるのでしょうか。**

**A：** 網膜の外側にある脈絡膜みやくらくまくという組織から、新生血管という異常血管が網膜に侵入することで病気が生じます。新生血管は脆いため出血しやすく、網膜内に出血したり、血液成分が漏出することで視細胞が障害されます。新生血管が発生する詳しいメカニズムは完全には分かっていません。

**Q：症状にはどのようなものがありますか。**

**A：** 病気の初期には物が歪んで見える、左右の眼で物の大きさが違って見える、見ようとする部位が暗くなる、などの症状があります。放置すると症状は進行しますが、進行具合には個人差があります。重症な場合は失明することもあります。

**Q：治療方法を教えてください。**

**A：** 現在最も有効とされているのが、血管内皮増殖因子（VEGF）というたんぱく質を抑える薬剤を眼球内に注射する治療です。この治療によって網膜に侵入した新生血管が退縮し、視力低下を防ぐことができます。

**Q：「加齢黄斑変性」になりやすい要因はありますか。**

**A：** 加齢、喫煙、紫外線曝露ばくろ、肉中心の生活習慣、遺伝などが発症リスクを高める要因といわれています。

**Q：普段から気をつけることや予防法などはありますか。**

**A：** 病気の初期段階では、両眼で生活していると症状に気付かず発見が遅れることがあります。普段から片眼だけで物を見たりすることで、症状に早く気づくことができ、病気の早期発見につながります。予防法としては、禁煙、紫外線予防、緑黄色野菜の摂取、サプリメントなどがあります。



井坂先生から  
ひとこと

眼科 医員

いさか たいち  
井坂 太一

この病気は発見が遅れると、治療しても見え方がかなり悪くなってしまうことが多いです。逆に言えば早期発見、早期治療ができれば、長期間見え方を維持することができます。早期発見のためにも、今回お話した症状があるようならすぐ眼科へ受診しましょう。また、喫煙は最もこの病気が発症しやすく、悪くなりやすい因子です。これを読んでいただいた方には、この機会に禁煙することを強くおすすめします。